

2023 年度

(公財) 北海道サッカー協会 都道府県審判トレセン ユース 3 級審判員研修会① 実施報告書

平石 暁史

都道府県審判トレセン ユース 3 級審判員研修会①

○ 2023 年 8 月 2 日 (水) (Zoom Meeting を用いた事前研修)

【タイムスケジュール】

20:00 大会レギュレーション確認

20:30 講義 1 「8 人制サッカー審判法理論」

21:00 移動手段・集合時間確認・事前研修終了

【参加者】 審判員 5 名

菅澤幸哉・高野和也・千葉吏恩・蛭子拓海 (以上、札幌地区 3 級)

加藤和馬 (函館地区 3 級)

インストラクター 3 名

平石 暁史 (北海道サッカー協会審判委員会育成部部員)

鈴木 敏晴 (室蘭地区サッカー協会審判委員長・2 級審判インストラクター)

三平 富喜雄 (室蘭地区サッカー協会審判副委員長・2 級審判インストラクター)



○ 2023 年 8 月 3 日 (木) (厚真町)

【会場】 浜厚真野原公園サッカー場

【タイムスケジュール】

8:50 審判員集合

9:00 事前説明「FDカップU12北海道国際フットボールドリームカップについて」

9:10 ウォーミングアップ・審判法の確認

9:40-17:40 審判実技「FDカップU12北海道国際フットボールドリームカップ」

18:00 競技終了・振り返り・フィードバック

19:00 宿舎到着・夕食

【参加者】 審判員 6 名

菅澤幸哉・高野和也・千葉吏恩・蛭子拓海 (以上、札幌地区 3 級)

宮野龍之介 (苫小牧地区 3 級)・加藤和馬 (函館地区 3 級)

インストラクター 3 名

平石 暁史 (北海道サッカー協会審判委員会育成部部員)

鈴木 敏晴 (室蘭地区サッカー協会審判委員長・2 級審判インストラクター)

三平 富喜雄 (室蘭地区サッカー協会審判副委員長・2 級審判インストラクター)

【アドバイザー】 山崎 裕彦 氏 (日本サッカー協会審判委員会指導者部会長)



○2023年8月4日（金）（厚真町・むかわ町）

【会場】 浜厚真野原公園サッカー場／むかわ町学習交流センター まなぶ館

【タイムスケジュール】

7:00 モーニングトレーニング・朝食
9:00 ウォーミングアップ・審判法の確認
9:30-16:00 審判実技「FDカップU12北海道国際フットボールドリームカップ」
16:00 競技終了・振り返り・フィードバック
17:00 講義1「日本のトップ審判員の世界について」
（山崎裕彦 北海道地域レフェリー・デヴェロップメント・オフィサー）
講義2「よりよい審判員をめざして」
（平石暁史 北海道サッカー協会審判委員会育成部員）
19:00 宿舎到着・夕食
20:00 風呂、洗濯等
22:00 就寝

【参加者】 審判員6名

菅澤幸哉・高野和也・千葉吏恩・蛭子拓海（以上、札幌地区3級）

宮野龍之介（苫小牧地区3級）・加藤和馬（函館地区3級）

インストラクター3名

平石 暁史（北海道サッカー協会審判委員会育成部部員）

鈴木 敏晴（室蘭地区サッカー協会審判委員長・2級審判インストラクター）

三平 富喜雄（室蘭地区サッカー協会審判副委員長・2級審判インストラクター）

【アドバイザー】 山崎 裕彦 氏（日本サッカー協会審判委員会指導者部会長）



○2023年8月5日（土）（厚真町）

【会場】 浜厚真野原公園サッカー場

【タイムスケジュール】

7:00 モーニングトレーニング・朝食
9:00 ウォーミングアップ・審判法の確認
9:30-12:00 審判実技「FDカップU12北海道国際フットボールドリームカップ」
12:00 競技終了・昼食
13:00 振り返り・フィードバック
13:30 研修会終了・解散

【参加者】 審判員 6名

菅澤幸哉・高野和也・千葉吏恩・蛭子拓海（以上、札幌地区3級）

宮野龍之介（苫小牧地区3級）・加藤和馬（函館地区3級）

インストラクター3名

平石 暁史（北海道サッカー協会審判委員会育成部部員）

鈴木 敏晴（室蘭地区サッカー協会審判委員長・2級審判インストラクター）

三平 富喜雄（室蘭地区サッカー協会審判副委員長・2級審判インストラクター）

【アドバイザー】 山崎 裕彦 氏（日本サッカー協会審判委員会指導者部会長）



研修をふり返って

○参加審判員 千葉吏恩（札幌地区所属3級審判員）

研修会に参加させていただくのは今回で3回目となります。1年前と同様に8人制の試合を行いました。大会の規模がとても大きいことに驚き、その雰囲気にもまれて「審判をちゃんと務めることができるだろうか」と心配になりました。試合が始まってからは極力ミスがないように、そして正しく競技規則を適用することを心がけました。ふだん経験することのないような韓国のチームや中国のチームなどの試合も担当し、言葉が通じない壁にもぶつかり、大変さも実感しました。しかしながら今回の研修でも仲間と共に厳しくも楽しさを感じることができる学びの多い研修会に参加することができてとても嬉しく思いました。最後になりますが、今回も研修会に招待していただきありがとうございました。今後も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

○参加審判員 高野和也（札幌地区所属3級審判員）

今回の研修でもものすごく良い経験をすることができました。8人制サッカーの審判と、ふだんは担当しないカテゴリーの試合を1人で審判をすることは学ぶことも多かったです。最初は11人制と同じ動きをしていて、それではオフサイドの判定ができないこと気づきました。また、8人制のフィールドの真ん中に立っていると、選手とぶつかったりプレーの邪魔になることがわかりました。課題はオフサイドを監視できる場所にいながらも争点に近づくということに焦点を当て、試合を重ねるごとにインストラクターの皆さんから反省をいただき、次の試合で修正できるように意識することを心がけました。自分は競技規則についてまだまだ知らないことが多く、感覚で審判をやっていることがあるので、もっと上を目指していくためには、競技規則を持ち歩いてふだんから読む習慣を身につけたいと思いました。研修会を終え、自分のチームに戻って練習試合などで審判を務める機会がさっそくありましたが、研修会に参加する前と参加したあとでは全然違うと言われて、改めて今回の研修は自分にとって良い経験になったと実感することができました。このような機会を与您いただき本当にありがとうございました。同世代のユース審判員6名が仲良くなり、繋がりも広がり、これも審判活動の良いところだと思います。このたびは本当にお世話になりました。

○参加審判員 宮野龍之介（苫小牧地区所属3級審判員）

このたび私は初めて審判研修会に参加させていただき、審判の難しさを多く学びました。いつもの11人制ではなく8人制の試合、そして1人制審判だったので、争点との距離感や走るコースが普段と違うことが難しかったです。3日間通して指導された「距離感が遠くて説得力がない」ということが一番改善するのに難しいと感じたことです。

オフサイドラインを監視するためにオフサイドラインの延長上のポジションから見ようとしたら、ボールのある争点と距離が遠くなってしまい、ファウルをとった時の説得力が薄れてしまいます。しかしながらボールのある争点に寄りすぎると、オフサイドラインがしっかり見えず、オフサイドの説得力がなくなってしまいます。その2つがしっかり見える位置に立つのが、一番難しいと感じました。走るコースという点においても、11人制だと対角線を軸に移動しますが、8人制の1人審判法だと、立ち位置を取るために直線で移動しなければならない場面もあり、11人制サッカーとは異なる難しさがありました。研修会で学んだことを今後も活かして審判活動に励みたいと思います。

○参加審判員 蛸子拓海（札幌地区所属3級審判員）

僕がこの研修会で学んだことは2つあります。1つ目はレフェリングです。慣れない8人制だったので、普段とは違うポジショニングを取る必要がありました。初めは争点との距離が遠かったり、パスコースに入ってしまったたりしてしまいました。その失敗を経験し、次のプレーを予測することが大切だということに気づくことができました。このことは8人制だけでなく、11人制でも同じことがいえるので大きな収穫となりました。また、インストラクターの方に「笛の強弱がない」とアドバイスを頂き、意識をして笛を吹いてみたところ、スムーズに試合を進めることができたので、これからも大切にしていきたいと思いました。2つ目は繋がりです。これは前回の伊達市での研修でも感じたことなのですが、時間を置いて改めて感じました。同年代の審判員と一緒に活動することの楽しさ、このような研修会を開催してくださった大人の方々への感謝、人は人と繋がって、支えられて、切磋琢磨していくことが楽しいことなのだとしみじみと感じました。そして、多くの人に感謝しないといけないのだと感じられる研修会でした。今回の研修会で得た経験や知識を審判活動で活かし、さらに成長できるように頑張りたいと思います。

○参加審判員 加藤和馬（函館地区所属3級審判員）

今回の研修では、FDカップの審判を担当させていただきました。僕自身、8人制サッカーの審判は初めてのことでとても緊張しました。8人制サッカーの審判と11人制サッカーの審判の大きく違うところは審判が1人しかいないということです。これによりオフサイドの判定やライン際でボールが出た際の判定がいつもよりとても難しく感じました。争点との距離が近すぎても試合全体が見えず、遠すぎると争点の細かな動きが見えないので、そこをいちばん意識しましたが、やはり最初は距離感が分からずとても難しく感じました。今回の研修で僕はゴールについて確信を得ずに判定してしまった試合がありました。僕のストロングポイントは走れることだと思っているので、自分で近づいて判定していれば選手や監督も納得することができたのだと思います。そこはポジショニングの悪さや走れていなかったことが原因だったと考えています。審判としてこれほど緊張感のある試合を担当することがなかったので、自分自身とても学ぶことが多かったです。今回の研修で学べたことを次の研修に活かして頑張りたいと思います。

○インストラクター 平石暁史（ユース3級審判員研修担当）

昨年度は高校選手権の予選の日程と重なり、参加審判員がわずか2名の研修会でしたが、今年度は少し日程をずらし、6名のユース審判員の参加のもとで研修会を開催することができました。開催にあたり、審判研修のための試合を提供いただいた「FDカップU12北海道国際フットボールドリームカップ」の関係者の皆様のご理解ご協力に、改めて感謝申し上げます。また、ユース審判員を推薦くださった各地区協会と、ユース審判員の育成に対して全面的にサポートいただいた各地区協会審判委員会の皆様に心からお礼を申し上げます。

本研修会は、北海道地域におけるユース審判員の育成においてたいへん重要な位置づけのある研修会と考えております。それゆえ、研修会を主催する側として、研修会が終わったあとに審判員たちがどのように変容を遂げ成長をしたのか、その成果が問われる責任をいつも感じております。この3日間の研修では、例年になく気温の高い暑さの中、ユース審判員たちが自身の課題を乗り越え、北海道のサッカーを支えるトップレフェリーを目指して一生懸命学び、実践する姿が見られました。また、昨年度の3月に伊達市で開催した「ユース審判員研修会②」でも感じたことではありますが、若い審判員たちが互いに協力しながら、前向きな姿勢で楽しみながらチームとして審判活動に励む姿を本研修会でも見ることができました。改めて本事業の大切さを実感することができた場面でした。

最後になりますが、実技研修を進めるにあたり、「FDカップU12北海道国際フットボールドリームカップ」のご協力をいただきました。スタッフの皆様には趣旨をご理解いただき、審判員の未熟なレフェリングに対しても温かく見守りいただきました。本当に感謝しております。ありがとうございました。